

鈴鹿地区高等学校再編活性化にむけて

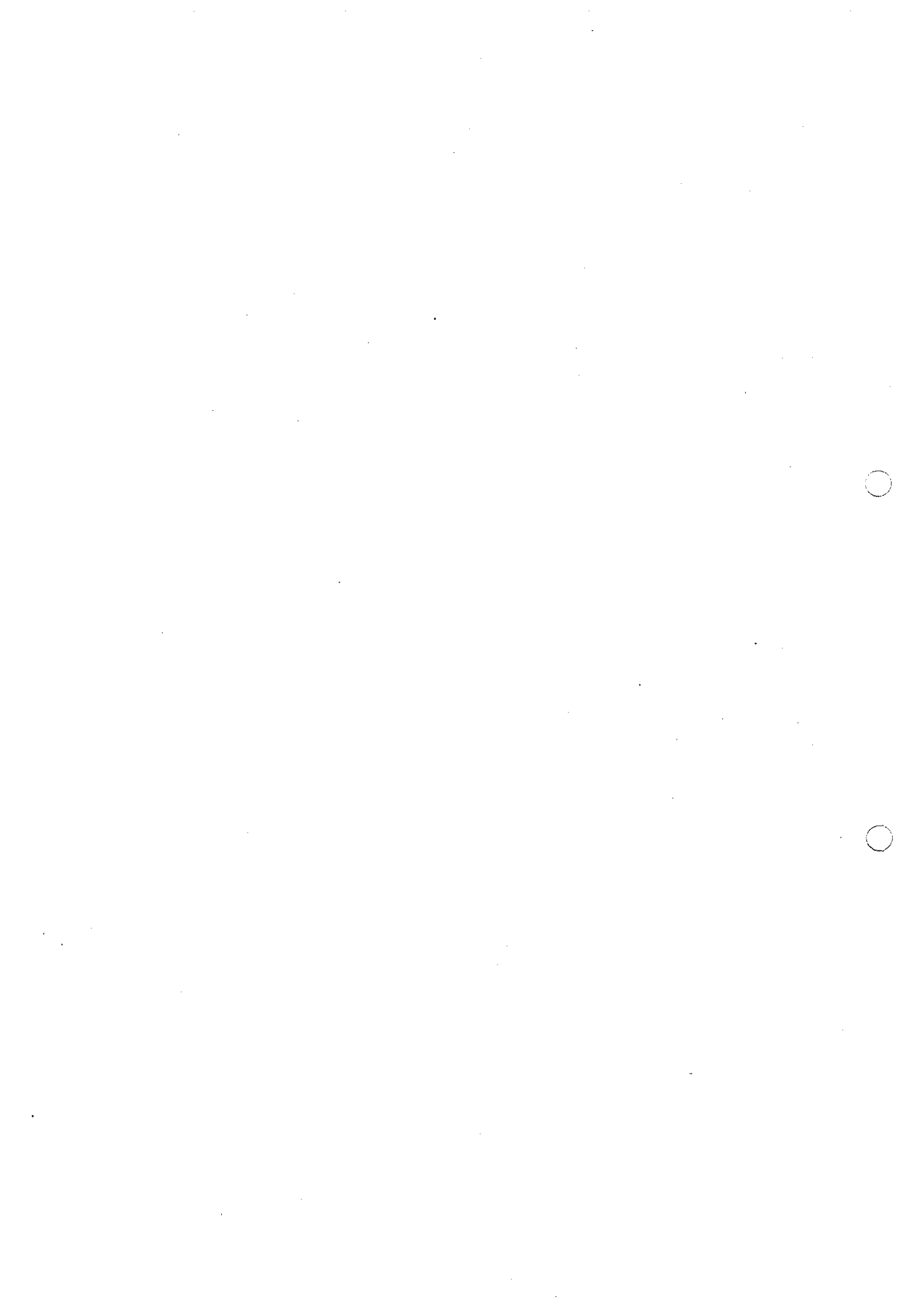
(報 告)

平成16年1月

鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会

も く じ

| | | |
|---------------------------------|-------|----|
| はじめに | ----- | 1 |
| 鈴鹿市内県立高等学校の現状と課題 | ----- | 2 |
| 鈴鹿市内県立高等学校再編活性化策 | ----- | 4 |
| 資 料 | ----- | 7 |
| 1 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会 設置要綱 | ----- | 8 |
| 2 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会 平成15年度委員名簿 | ---- | 9 |
| 3 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会 協議会経過概要 | ----- | 10 |



はじめに

国際化や情報化の進展、価値観の多様化、少子高齢化の急激な進行など社会状況の変化や学校週五日制など学校を取り巻く環境は急激に変化している。大きな変革の時代を迎え、教育に対する関心も高く、学校の的確な対応が求められ、学校のあり方も問われている。県立学校では、平成14年3月三重県教育委員会が策定した県立高等学校再編活性化第一次実施計画に基づき改革が進められている。鈴鹿地区では、平成15年2月、鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会を設立し、この実施計画を踏まえながら市内県立高校の現状を分析し、課題は何か、地域のニーズはどうか、将来のあり方など市内県立高校の再編活性化について協議してきた。

人口19万の県内第二の都市鈴鹿市は、自然豊かな環境の中で世界をリードする企業がある一方、伊勢型紙など伝統産業も今日に受け継がれ、芸術・文化活動やスポーツも活発な調和のとれた商工業都市である。

教育界に目を向けると、高校への進学率が95%を超える中で多様なニーズを持った生徒が高等学校に入学してきており、それらに対応する教育内容の整備が問われている。一方、子供達の規範意識の欠如、家庭や地域社会の教育力の低下、中途退学など今日的課題が山積している。各高校は、生徒のニーズに対応した教育内容の見直しや指導方法の改善など課題解決に積極的に取り組んでおり、今後も地域と連携しつつ小中高が協働して対応することが必要である。

高校はそのめざす姿、すなわち、生徒にどのような教育を施しどのような方向に育てるのか明確に示すとともに、地元の子供達が憧れて入学し夢を実現できる、活力溢れた魅力ある学校となるよう、特色化を図る必要がある。一方、小中学校や地域社会は、地元の県立高校を支えるべく進路指導のあり方などを問い直す必要がある。何よりも、小中学校と連携して子供達を地元の高校で育み、郷土の鈴鹿市を誇りに思う心を育て、将来の鈴鹿市を担う人材を育成することが、鈴鹿地域に活力を与え国際文化都市の創造に繋がるものと考えらる。

小中高及び地域社会の連携を密にして「鈴鹿地区の教育をどうするのか」「自分の子供を通わせるにはどんな高校にしたいのか」全体的かつ高い視野に立って考えないと、鈴鹿地域の真の活性化は実現しない。

平成15年5月以降、毎月本協議会を開催し、次代の地域社会、国際社会を担う人材を育成し、人間性豊かな文化を創造する都市をめざすという原点に帰って、議論を重ねてきた。その結果を県立高等学校再編活性化第二次実施計画に反映させたく、本協議会としてここに市内県立高等学校の再編活性化について、将来の方向を短期的なもの長期的なものにまとめ報告する。

最後に、市内の県立高校が、地域に開かれた活力ある学校として発展していくことを期待したい。

平成16年1月

鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会

会長 中条 政紀

鈴鹿市内県立高等学校の現状と課題

(1) 鈴鹿市内高等学校の現状

鈴鹿市内には5校の県立高等学校と1校の私立高等学校及び工業系の国立高等専門学校がある。私立高等学校は、中学校も併設している普通科を設置する高校であり、学校の規模も大きい。

県立高校は

普通科、理数科、商業科を設置する神戸高等学校（鈴鹿市神戸4丁目1-80）

普通科、家政系の生活国際科を設置する白子高等学校（鈴鹿市白子4丁目17-1）

普通科のみを設置する石薬師高等学校（鈴鹿市石薬師町字寺東452）

普通科、普通科情報コース、県内唯一の体育科を設置する稲生高等学校（鈴鹿市稲生町8232-1）

県内唯一の英語コミュニケーション科、応用デザイン科を設置する飯野高等学校（鈴鹿市三日市町字東新田場1695）

神戸高等学校

| 学年 | 普通科 | 理数科 | 商業科 | 計 |
|----|-----|-----|-----|----|
| 1 | 7 | 1 | 1 | 9 |
| 2 | 7 | 1 | 2 | 10 |
| 3 | 7 | 1 | 2 | 10 |
| 計 | 21 | 3 | 5 | 29 |

白子高等学校

| 学年 | 普通科 | 生活国際 | 計 |
|----|-----|------|----|
| 1 | 7 | 1 | 8 |
| 2 | 7 | 1 | 8 |
| 3 | 7 | 1 | 8 |
| 計 | 21 | 3 | 24 |

石薬師高等学校

| 学年 | 普通科 | 計 |
|----|-----|----|
| 1 | 6 | 6 |
| 2 | 7 | 7 |
| 3 | 7 | 7 |
| 計 | 20 | 20 |

稲生高等学校

| 学年 | 普通科 | 情報コース | 体育科 | 計 |
|----|-----|-------|-----|----|
| 1 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| 2 | 3 | 2 | 1 | 6 |
| 3 | 4 | 2 | 1 | 7 |
| 計 | 9 | 6 | 4 | 19 |

飯野高等学校

| 学年 | 英語コミ | 応用デザイ | 計 |
|----|------|-------|----|
| 1 | 2 | 2 | 4 |
| 2 | 2 | 2 | 4 |
| 3 | 2 | 2 | 4 |
| 計 | 6 | 6 | 12 |

であり、各学年の募集定員による学級数は左記の表の通りである。

この表から分かるように、鈴鹿市内県立高等学校の平成15年度の募集定数は33クラス1320人である。その内訳は、普通科22クラス(880人)、普通科情報コース2クラス(80人)、英語コミュニケーション科2クラス(80人)、応用デザイン科2クラス(80人)、体育科2クラス(80人)、理数科1クラス(40人)、商業科1クラス(40人)、生活国際科1クラス(40人)である。

また、平成15年度鈴鹿市内5校の県立高校に1245人が入学したが、その内755人が鈴鹿市内在住の生徒であり、その割合は約6割である。つまり、入学者の4割近くは、他市町村からの入学者である。

個々の高校を見てみると、神戸高校、石薬師高校は入学者の7割強が、白子高校、稲生高校、飯野高校は半数が鈴鹿市内の生徒である。

逆に、鈴鹿市から他地域への流出状況は、津・安芸地区に317人、三泗地区に257人が進学している。

特に津市内の普通科高校3校に約210人が、津市、四日市市の商業高校に約120人が、津市、四日市市の工業高校に約190人が入学している。

(以上、数字は県教育委員会、及び鈴鹿市教育委員会調)

このように、鈴鹿市内の中学校を卒業した生徒の半数近くが他市の高校に進学し、鈴鹿市内の複数の高校が2次募集を実施したり、それでも定員割れを起こしている。

(2) 鈴鹿市内中学生の状況

鈴鹿市内の中学3年生は今年度約1900人である。その3年生に対し、2年次、及び3年次に鈴鹿市がアンケート調査を行った。3年次の結果によると、市内に設置して欲しい学科は工業系、音楽系、総合学科、国際系、商業系の順になる。

(3) 鈴鹿市内県立高等学校の課題

昭和50年代の生徒急増期に、石薬師、稲生高校が創られたが、そのとき鈴鹿市、県共に普通科高校設置に重きを置き、鈴鹿市には、工業高等専門学校があるとは言え、工業科が設置されなかった。商業科や家庭科についても普通科に併設されているのみで、専門高校として設置はなく、普職の比率から見れば、普通科が高くなっている。

なお、「県立高等学校再編活性化第一次実施計画」では、『神戸高校商業科は、廃止又はコースとして地域での商業教育の在り方を検討する。』とされており、平成17年度には神戸高校商業科は、募集停止の方向で進んでいる。

また、中学校卒業生数は、鈴鹿地区においては、平成19年には、現状から約280人(公私合わせて7学級分)が減少する見込みである。

このため、鈴鹿市内高等学校の一層の魅力化・特色化を進める必要がある。

鈴鹿市内県立高等学校再編活性化策

鈴鹿市内の高等学校5校は前述「鈴鹿市内県立高等学校の現状と課題」で述べたように、普通科の学級が全体の3分の2を占め、普通科のコースを入れれば72%を超えている。このため、中学生が工業系に進学する場合は四日市市や津市の高校または国立工業高等専門学校に進学している。商業系に進学する場合も他市の商業高校に進学する者も少なくない。

7割を超える普通科に於いても、学力的に見た場合の上位層の中学生が他市の県立高校や私立高校に進学し、逆に他市町村からの受検者で定員を埋めている状況が続いている学校もある。そのため、鈴鹿市内の県立高校の地盤沈下に対する指摘も強くなされている。

反面、県内唯一の体育科、応用デザイン科は科の特色を生かし一定の成果を上げているが、中学生の希望する音楽系や国際系の学科、総合学科は市内には設置されていない。

また、昨年度から高校への通学区域の弾力化が進み、鈴鹿市内からは県内どの地域へも進学できるようになり、逆に鈴鹿市内の高校へもどの地域からも志願できるようになった。

このため、鈴鹿市内の各高校は、より特色ある学校づくりを推進し、地域社会に貢献して、多くの中学生が志願してくる学校に変わらなければならない。

そのため、本協議会で今後の鈴鹿市内県立高等学校5校の再編活性化策を協議し、次のようにまとめた。

(1) 短期的再編活性化策

鈴鹿市内5校の高等学校が、中学生や保護者、地域から選ばれる高校、信頼される高校になるためには、まず、不易である基礎基本の徹底と生活習慣の確立を基本に、知・徳・体の調和ある成長を図り、地域社会、国際社会で活躍する人材を育てることが必要である。さらに鈴鹿市が文化を創造する都市になるには、市内の小中学生が憧れるような、学術・文化・スポーツを発信するアカデミックあるいはフレキシブルな高校が求められる。その為には鈴鹿地区の全高校が、それぞれ整合性のとれた役割を担わなければならない。

神戸高校は、質実剛健・文武両道の教育精神のもと、80有余年の伝統に支えられ発展してきたが、商業科が募集停止となるなかで地域社会の期待に応えるため、理数科を核として進取の気風に富み重厚かつアカデミックな雰囲気漂う県内有数の進学校にならなければならない。そのため、理数科を複数クラスにし一層のパワーアップを図るとともに、普通科の活性化を積極的に進め、いかなる大学進学にも対応できる学習環境や指導体制を整える必要がある。そこでは、特に英語を中心とした文系の指導体制の強化も必要である。

白子高校も同じく80有余年の伝統を持つが、今後は新しいアイデンティティを創造し、地域との関わりを強め、地域の活性化にも貢献できる『地域の高校』として生まれ変わらなければならない。そのため、全校的に目的意識や向上心を持った生徒の集団創りを図り、個性を伸ばす学校として、回復しつつある地域の信頼をさらに確固たるものにしなければならない。

そして、主たる目標は普通科の伝統の復活である。そのため、「分かる授業」と「達成感のある授業」の提供に向けて、習熟度別および小人数指導、進学指導プロジェクト・チームの創生による補講体制などを進めなければならない。

また、普通科を活性化させるとともに、白子高校の特性を生かし専門学科を拡充することにより、地域中学生の多様なニーズに対応し、『行きたい高校』としての体制と学習内容を創り上げなければならない。専門学科については、地域唯一の家庭科として学習内容を見直しリニューアルを図り、成果をあげている吹奏楽を足場にして音楽教育を広く提供することができる体制充実を図る必要もある。

稲生高校は、自動車産業を中心にモータースポーツ、レジャー等活気溢れる本県北中勢部の中央に位置している。この地域性を生かした普通科として、平成16年度から普通科にモータースポーツなど多様な選択肢のある類型制を導入する。

また、本県唯一の体育科教育の一層の充実を図り、本県スポーツの拠点校として確固たる位置を築くとともに、スポーツ指導においてジュニア層からの一貫性を追求し、スポーツの発信地として地域に貢献できる高校を目指さなければならない。

飯野高校は、応用デザイン科と英語コミュニケーション科からなる、芸術と文化のバランスのとれた専門高校といえる。

応用デザイン科の各コースで現在学習している内容について、今後は油絵、日本画、彫刻の美術分野と服飾デザイン、商業デザイン、コンピュータグラフィックスなどのデザイン分野に大きく分けて深く学習し、個性を伸ばし進路に合わせて学習できる体制が必要である。

英語コミュニケーション科の充実のためには、地域社会や中学生に学科の特性について広く周知させたい。新たにビジネス英語など生徒の学びたいカリキュラムを膨らませ、英語コミュニケーション科で学ぶことの意義を幅広く考える必要がある。

鈴鹿市北部に位置する石薬師高校は、「心の教育の充実」と「確かな学力の向上」を達成しなければならない。そのために、基礎学力・社会規範・基本的生活習慣・意欲と忍耐・環境を軸に、「当たり前の方が当たり前でできる生徒を育てる学校」の実現を図り、

どこに出しても評価される人材を輩出する、より地域に密着した高校にならなければならない。

なお、石薬師高校の財産であるISO14001を生かし、また、隣接する消防学校との連携を図るなど、環境や防災に関わる事柄を専門的に勉強できる体制を考えることも必要であろう。その際、神戸高校で募集停止となる商業科に代わり、商業系科目をより充実して学習できるようにすることも考慮に入れる必要がある。

(2) 長期的再編活性化策

鈴鹿地区の子供達が憧れをもって入学したい高校が地元にあること、そして、地域の子供達の夢を育むことができる高校となるため、既存の5高校全体で統廃合を含めた再編化策を構築しなければならない。すなわち、短期的に各高校が目指した姿を実現した上で、さらにそれを発展、昇華させることができないなければならない。

また、各学校が自己評価、外部評価、学校経営品質に対する取り組みを推進し、地域社会からより一層期待される学校をめざさなければならない。

大学進学を目指す高校は、県内有数の進学校にならなければならない。そのために設置学科の整理を推進し、進学希望の生徒に対して他地区に劣らない徹底した進学指導を行う必要がある。

その他の高校については、大胆な高校の統廃合を視野に入れ、今後の生徒数の減少にともない既存の各学校の特色を十分に生かし、魅力ある学校を目指すことが必須条件である。

特に高校の統廃合については、より選択肢のある専門学科への改編や各学校の地理的条件の見直しなどを徹底的に図り、有機的に結合させ合理化を図ることが肝要である。

具体的には、鈴鹿市内に無い工業系、総合学科、芸術系、環境等を学習できる体制、多様な形態の高校（単位制高校等）、公設民営の高校等の設置も含め継続的に検討すべきである。

さらに、時代の変化に伴い保護者や子供のニーズもまた現在から変化していくことであろう。そのような変化にも耐え得る教育システムを確立するのは至難の技といえる。

すなわち、小中学校や保護者のみならず、地域社会にあっても地元の県立高校を支える視点での進路指導が不可欠である。高校側だけの体制やシステム構築を待つのみで、従来のような他地区の高校への流出を看過、あるいは奨励しては将来に互り鈴鹿市としての目標は達成できないであろう。そこで進路指導には、従来のような小中高間の間隙を埋めたシステムの確立もまた早急に望まれる。

資 料

○ 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会

- 1 設置要綱
- 2 平成15年度委員名簿
- 3 協議会経過概要

鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会設置要綱

第1条 設置

県立高等学校の再編活性化を推進し、地域社会における高等学校の特色化、魅力化を図り、もって学習者により魅力ある学習環境を整備するために鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会（以下、協議会という）を設置する

第2条 所掌事項

協議会は、県立高等学校再編活性化実施計画にむけ、次に掲げる事項について具体的に検討し、その結果を三重県教育委員会教育長に報告する

- (1) 今後の地域社会における県立学校の在り方に関すること
- (2) 推進計画の具体的日程に関すること
- (3) 県立学校再編活性化推進に資すること
- (4) その他検討を要すること

第3条 組織

- (1) 協議会は、以下の関係者で組織する

鈴鹿市内県立高等学校長、同教頭、及び亀山高等学校長、県教育委員会事務局関係者、鈴鹿市教育委員会代表、鈴鹿市内小中学校長会事務局代表、鈴鹿市中学校長会代表、鈴鹿市内小中学校及び高等学校教職員代表、鈴鹿市内小中学校保護者代表

- (2) 協議会に会長、副会長（2名）を置く
- (3) 会長、副会長の1名には関係県立高等学校長の中から、副会長1名については関係中学校長会の中から互選により決める
- (4) 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。但し、職務代行は高等学校長の副会長があたる
- (5) 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる

第4条 調査委員会

- (1) 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する
- (2) 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する

第5条 会議

- (1) 協議会は、会長が召集し、会長が議事運営する
- (2) 会長の庶務にあたる学校を幹事校とし、協議会の開催、資料の作成等を幹事校にて処理する

第6条 その他

この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める

附 記

この要綱は平成15年2月24日から施行する

平成 1 5 年度委員名簿

| 名 前 | 職名・職務 | 備 考 |
|-------|----------------------|-----|
| 中条 政紀 | 神戸高等学校長 | 会長 |
| 大島 謙 | 白子高等学校長 | |
| 濱谷 芳幸 | 石薬師高等学校長 | |
| 中川 安久 | 稲生高等学校長 | 副会長 |
| 黒宮 啓子 | 飯野高等学校長 | |
| 中村 和生 | 亀山高等学校長 | |
| 山尾 教雄 | 鈴鹿市立桜島小学校長 | |
| 一見 俊雄 | 鈴鹿市立旭が丘小学校長 | |
| 杉本 吉弘 | 鈴鹿市立大木中学校長 | 副会長 |
| 垣内 茂夫 | 鈴鹿市立神戸中学校長 | |
| 伊藤 吉郎 | 鈴鹿市立白鳥中学校長 | |
| 鎌田 敏明 | 神戸高等学校教頭 | |
| 齋藤 俊彰 | 神戸高等学校教頭 | |
| 加藤みち子 | 神戸高等学校教頭 | |
| 竹尾 泰 | 白子高等学校教頭 | |
| 中森 一郎 | 石薬師高等学校教頭 | |
| 渡辺 修 | 稲生高等学校教頭 | |
| 谷口 勝昭 | 稲生高等学校教頭 | |
| 加藤 博也 | 飯野高等学校教頭 | |
| 中谷 文弘 | 三重県教育委員会事務局教育改革チーム主幹 | |
| 倉田 裕司 | 三重県教育委員会事務局教育改革チーム主査 | |
| 山下 健 | 鈴鹿市教育委員会教育長 | |
| 岡井 敬治 | 鈴鹿市教育委員会事務局教育次長 | |
| 一見 勝美 | 鈴鹿市教育委員会事務局指導課長 | |
| 森川 克美 | 鈴鹿市立郡山小学校教諭 | |
| 太田 充彦 | 神戸高等学校教諭 | |
| 樋口 延枝 | 鈴鹿市 P T A 連合会顧問 | |

協議会経過概要

資料 3

| | 開催日 | 内 容 |
|------------------|-----------------|--|
| 平成14年度 第1回協議会 | 平成15年 2月24日 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会設置に至る経過説明 ・設置要綱の決定 ・会長、副会長の選出 ・来年度、協議会本格的スタートに向けて調整 |
| 平成15年度 第1回協議会 | 平成15年 5月7日 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員の確認及び自己紹介 ・昨年度の経過報告、今後の協議会の持ち方 ・鈴鹿地区5校の現地点での特色化に向けての青写真 |
| 平成15年度 第2回協議会 | 平成15年 6月3日 | <ul style="list-style-type: none"> ・神戸高校商業科の今後 ・各校の特色化・魅力化について |
| 平成15年度 第3回協議会 | 平成15年 7月3日 | <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市内の小中学校、保護者から鈴鹿市の高等学校に望むこと ・鈴鹿市内高等学校長の各校特色化・魅力化に関する考え |
| 平成15年度 第4回協議会 | 平成15年 8月1日 | <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市内の英語教育－特に飯野高校の英語コミュニケーション科－について ・鈴鹿市内の芸術教育－特に白子高校の音楽関係コースについて ・稲生高校7つの類型について |
| 平成15年度 第5回協議会 | 平成15年 9月10日 | <ul style="list-style-type: none"> ・稲生高校7つの類型について ・石薬師高校の活性化策について ・白子高校の活性化策について |
| 平成15年度 第6回協議会 | 平成15年 10月15日 | <ul style="list-style-type: none"> ・飯野高校英語コミュニケーション科について ・神戸高校理数科のパワーアップについて ・鈴鹿地区全体の活性化について |
| 平成15年度 第7回協議会 | 平成15年 11月19日 | <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市全体をみて、鈴鹿市内の高等学校の将来展望について、意見交換 ・協議会のまとめに向けて |
| 平成15年度 第8回協議会 | 平成15年 12月12日 | <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿市全体をみて、鈴鹿市内の高等学校の将来展望について、意見交換 ・協議会の報告書の検討 |
| 平成15年度 第9回協議会 | 平成16年 1月9日 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の報告書の決定 |